

静岡県立大学 前編

富士山を望む景勝地、日本平を背にして建つ静岡県立大学のキャンパス。豊かな自然環境と赤煉瓦の外観が多くの学生や市民に愛され続けている。前編は、印象深い建築を生んだ構想を紹介する。



3階分の高さで2連アーチをかけた学部棟のカレッジエントランス。ゆったりとした空間の向こう側には、3階吹抜けのカレッジホールが設けられている。

三校の伝統を基礎に 新設された総合大学

四月の初旬、静岡県立大学を訪れた。同大学は一九九一年にBCS賞を受賞し、今年で二二年を迎える。薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、看護学部の五学部が設置され、現在、学生・院生約二、九〇〇名が在籍する最高学府であり、静岡では

「県大」と呼ばれて親しまれている。

県大は静岡市の東部、日本平の裾野にあたる自然豊かなエリアに建っている。このエリアは県の文化センターゾーンを形成しており、広大な丘陵地に七〇年代から県立美術館と中央図書館などが整備され、県大が八七年に開校した。それまでであった静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡短期大学の三つの学校が改組・統合され、それぞれの教育研究実績と伝統を活かしながら、二十一世紀に大きな役割を果たす総合大学としてスタートしたのである。

設計コンペで評価された 煉瓦積みみの外観

キャンパスの建設に当たって、県は八四年に指名による設計コンペを実施した。大学の設計実績をもつ設計会社の中から、設計を委託するのにふさわしい会社を選ぶために、審査委員を始めとする視察団が組織され、さまざまな大学施設を見て回った。その結果、五つの設計会社グループを指名し、

その中から日総建（当時日本総合建築事務所）+アトリエ・Kの設計案が選ばれた。組織事務所の日

総建を代表とし、アトリエ・Kを主宰する建築家・小林美夫氏がチーフアーキテクトを務めた。このときの選出の決め手はどのような点にあったのだろうか。当時、県職員としてコンペの準備から県大の完成まで一貫して尽力した渡邊輝元氏が語ってくれた。「どの案も優秀で、甲乙つけがたかったのですが、審査委員の方々が揃って評価されたのが赤煉瓦積みみの外観でした。落ち着いた印象の煉瓦が、

開かれた総合大学を 表現した二つの広場

北西に位置するメインエントランスは、階段上のピロティ空間とつながっている。左手に管理棟の外壁が斜めに伸び、右手に七階建ての食品栄養学部棟が立ち上がり、誘



空から見た静岡県立大学。中央の細長いユニバーシティプラザの両側を学部棟が囲み、その先に半円形のコミュニティプラザが設けられている。右手の芝生広場も大学の敷地で、市民に開放されている。



ユニバーシティプラザを学生が行き交う。学部ごとに独立し、エントランスをもつ学部棟がスロープの両側に立ち並ぶ。煉瓦の質感豊かな外壁が連なる雰囲気には引き付けられる。



半円形のコミュニティープラザ。モニュメントを中心に階段がとりまく野外劇場のような空間。開放的な場に学生が自由に集まってくる。左奥はユニバーシティプラザ。

われるようにピロティをくぐると、そこには圧巻の風景が待ち受けていた。敷地の傾斜をそのまま活かしたスロープ状の広場が目の前に広がり、遠くまっすぐに上っていく。広場の幅は三三三、奥行き一六五に及び、中心線が丘陵の等高線に対して直角に向けられているという。その両側には各学部棟が向かい合い、外壁を覆う本物の煉瓦の豊かな色合いと彫の深い表情が目飛び込んでくる。整然としながら、とてもドラマチック

な展開だ。キャンパスを案内してくれたのは、県大の意匠設計主任を務めた日総建の中西克氏。「この空間がユニバーシティプラザです。コンペ案で、建築群に囲まれた都市のような空間をつくらうという提案をしました」。都市空間のあり方に、ローマ市のナヴォーナ広場をイメージしているという。また、広場に面して設けられた二連アーチのエントランスにも目を引かれる。五つの学部棟と一般教育棟はそれぞれ独立した建物で、個別にカレッジエントランスが設けられているのだ。しかも三階分の高さの堂々としたスケールをもっている。「設計の基本理念として私たちがあげたのは、各学部の独立性を尊重することでした。同時に、開かれた総合大学としての秩序を、空間構成で表現することを目指したんです」と中西氏。全体の統一感は、各棟の高さが揃い、連続することによって生まれている。しかし、ここにはすぐには気づかない工夫がある。敷地の傾斜に合わせて、各棟を七階建てから

四階建てまで、一階ずつ減らすことで、全体の高さを一定に保っているのである。さらにユニバーシティプラザを上りきると、直径七〇メートルの半円形の広場「コミュニティープラザ」が広がり、大きな開放感を与えてくれる。モニュメントを中心に野外劇場のように階段が取り巻き、広場の正面に講堂、左右に学生ホールと図書館が配置されている。二つの広場が結びつく構成によって、県大のキャンパスは高い密度の建築物を中央に集めた印象深い場所になっていることがわかる。また、中西氏は建物を集中させ

ることで、周囲に広がる自然環境をできるだけ温存することも当初の基本理念の一つだったと言う。「大学のキャンパスは、広い敷地に建物が分散し、設計もそれぞれ異なる場合が少なくありません。ありがたいことに、県大は私たちのグループで設計させて頂いたので、その後の増築にも基本理念が生かされたといえるでしょう」。広場を歩いていると、大きな声で呼び合う学生がいたり、歩く姿にも元気があり、その表情は生き生きと明るい。キャンパスに生まれる活気に、建築のあり方が深く関わっていることを実感した。



各学部棟の中央に3階吹き抜けのカレッジホールが設けられている。上部はガラスのトップライトで、自然光がホールに溢れる。電動で開閉し、雨天のときに閉じられる。

建築主より

コンペの準備段階から県大に関わり完成まで見届けました



一般財団法人静岡県建築住宅まちづくりセンター
渡邊輝元 Terumoto Watanabe

当時私は県の営繕課に所属していましたが、県大をつくることになりました。一九八三年十一月に静岡県総務部文書課に「県立大学設立準備室」が設置されて、建築主査として着任しました。そのときは準備室で建築の専門は私一人という状況でした。最初の仕事は設計コンペの準備作業でした。コンペ案を募集するには、全体の規模と予算を決めなければなりません。県大は薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部の四つの専門学部を

もつ総合大学として一からのスタートでしたから、前例となる資料がありませんでした。各学部については、全国の大学の建築資料をもとに、人員と専門性に見合った単位面積から、全体の規模とコストを積み上げていきました。まだ、パソコンのない時代で、設計案の募集を開始する一年後を目指して、膨大な作業になりました。工事が始まってからは、県としての管理や地元の調整などに携わりました。コンペ前から、当初に計画された一期、二期工事が終わるまでの約六年の間、私は異動することなく、ずっと県大の仕事が続けることができました。県の職員は三年ほどで異動になるのが一般的で、他の職員の多くは途中で異動していきました。同じプロジェクトの終わりまで見届けられることはめったにない経験です。それだけに県大は私にとつてたいへん思い出深い場所になっています。

設計者より

建築主・設計者・施工者が三位一体となる大切さを学びました



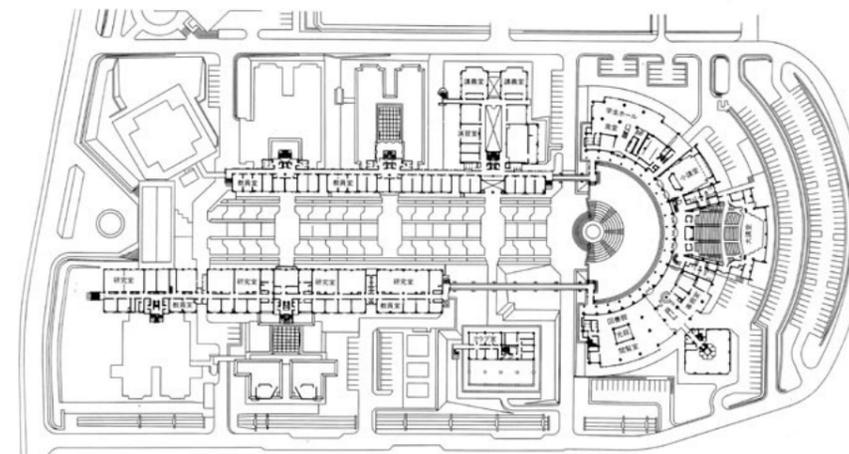
株式会社日総建
中西克 Masaru Nakanishi

日総建が組んだアトリエ・Kの小林美夫先生は、日本大学の教授でした。私も日大の出身で、学生時代には先生の研究室に出入りしていました。そのような関係もあり、コンペの指名を受けたとき、すぐに意匠担当に抜擢されました。県大の仕事についたとき、私は入社一〇年で、まだ三五歳でした。民間の設計監理の経験はありませんが、官公庁の大規模プロジェクトに関わるのも、現場での常駐監理も初めてで、コンペから設計監理までを担当した五年間は苦勞の

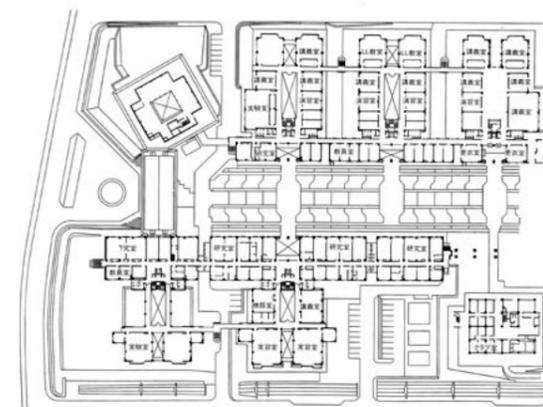
連続でした。それを応援してください。それが渡邊さんをはじめとする県の職員や同年代の施工会社の方々でした。そこで私は建築主・設計者・施工者が三位一体となる大切さを学びました。その後も、ここでの苦勞を思えば、何でもできると難関にぶつかるたびに県大に足を運んでいます。県大は特色あるキャンパスの環境に魅かれて入学してくる学生も多く、活気に満ち溢れています。キャンパス構内ばかりでなく、周辺は草花や樹木が豊富で、県立美術館や県立図書館をめぐるように、ゆったりと自由に散策できる道があり、ジョギングをしたり、子供たちを連れて遊びに来たり、市民に広く愛される場所になっています。魅力的な建築は、丁寧に使ってもらってこそ、時間とともに豊かさを増していきます。そのためサポート役として、これからはがんばりたいと思っています。



立面図



6階平面図



4階平面図

静岡県立大学

JR草薙駅から徒歩15分



工事概要

所在地：静岡県静岡市谷田395

建築主：静岡県

設計者：株式会社日総建、株式会社アトリエ・K

施工者：住友建設株式会社、木内建設株式会社、前田建設工業株式会社、鈴与建設株式会社、佐藤工業株式会社、株式会社佐藤工務店、安藤建設株式会社、平井工業株式会社、鹿島建設株式会社、イハラ建成工業株式会社

竣工：1989年3月31日

敷地面積：201,838㎡

建築面積：19,506㎡

延床面積：管理棟 5,355㎡、一般教育棟 6,362㎡、国際関係学部棟 6,081㎡、経営情報学部棟 5,050㎡、食品栄養科学部棟 8,878㎡、薬学部棟 17,328㎡、体育館 4,649㎡、教育文化施設棟 7,538㎡、その他8棟 2,499㎡

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造および鉄筋コンクリート造

